

道徳 ジャーナル

102号(夏号)

- 21世紀 心の時代に
新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み
と道徳教育の充実 工藤文三…………… 1
- 道徳授業 私の実践
・「ガラスの中に未来へのメッセージ」ネイチャー
アーティスト・写真家の天野尚さんに学
ぶ授業 渡邊泰治…………… 4
- ・自分にとっての「本当の幸せ」とは何か？
事前アンケートを活用して考えを深める
綾部恵…………… 6
- ・新学習指導要領を意識した授業作り～まずは
できることから始めよう～ 田中恵美子… 8
- どうなるこれからの道徳授業…………… 12

21世紀 心の時代に

新学習指導要領の 全面実施に向けた取り組みと 道徳教育の充実

全面実施に向けた教育課程の編成

平成二十九年に改訂された学習指導要領が、小学校は令和二年度から、中学校は令和三年度から全面実施に移される。小学校については、今年度後半以降、教育課程編成の基本方針を明確にし、編成作業に入る。教育課程編成の手順は、学習指導要領解説総則編に例が示されているので本稿では、特に学習指導要領改訂のポイントに関わる点について整理してみたい。

(1) 主体的・対話的で深い学びの位置付け

第一に主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善についてである。指導計画を作成する際に、単元などのまとまりにおいて、ねらいとする資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現を図らなくてはなら



浦和大学客員教授・国立教育政策研究所名誉所員

工藤文三

い。また、その際に教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせることも示されている。そこで、主体的・対話的で深い学びの内容が課題になるが、学習指導要領解説総則編には、おおむね次のような視点が示されている。

① 学ぶことへの興味・関心、自己のキャリア形成、学習への見通し、粘り強い取り組み、振り返り(主体的な学び)

② 協働的な学び、対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること、考えを広げ深めること(対話的な学び)

③ 見方・考え方を働かせ、知識の関連付けによる深い理解、情報の精査による考えの形成、問題の設定と解決策、思いや考えを基に創造すること(深い学び)

各教科等の年間指導計画を作成するに当たっては、三つの活動を単元などの部分に位置付

※この資料は、(社)教科書協会の「教科書宣伝行動基準」に則って作成しています。

け、どのように授業を構成するかを想定しておくことが必要である。教科書における単元の構成を確認し、どこにどのようなように三つの活動を設定するかを明示する。また、指導計画の様式に、「主体的・対話的で深い学びの視点」の項を設けて該当する箇所に記載する工夫も考えられる。

(2) 資質・能力を身に付ける取り組みと学習評価は三つの資質・能力の柱ごとに区分して示され、内容については、道徳科、特別活動以外は資質・能力別に構造的に示された。指導計画を作成するには、それぞれの指導内容ごとに目指す資質・能力を意識した指導方法、学習活動を工夫する必要がある。

また、資質・能力を身に付ける取り組みは、学習評価によって検証されることを踏まえ、指導計画において、各観点に応じた評価の場面と方法を予め設定しておく。指導要録の改訂により、評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に改められたが、それらの評価については、児童生徒一人一人の学習の目当ての状況、学習の進み具合や深まりの状況、学習の振り返りの状況などに関する評価資料が必要である。

(3) 計画的で実効性のあるカリキュラム・マネジ

メントの実施

新学習指導要領ではカリキュラム・マネジメントについて、次の三点が示された。一つは、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を横断的な視点で組み立てていくこと。次に、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと。最後に、教育課程の実施に必要な人的または物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと。

ここでは、教育課程という学校教育全体の視点から捉えられているが、カリキュラム・マネジメントを進める際には、各教科等ごとに実施し、続いて学校全体の教育活動の評価と改善を進める。カリキュラム・マネジメントは、これまでも教育課程の運営改善として、PDCAサイクルを生かす取り組みが行われてきた。今後はより計画的に、しかも実効性のあるマネジメントとなるよう手立てを講じる必要がある。

カリキュラム・マネジメントを進める際に大切なのは、計画が円滑かつ適切に実施されたかどうかという実施状況の評価と、学習成果の評価とを区別する視点をもつことである。前者には、授業時数の配当、進度の状況、予定した学習活動の展開の状況などが含まれる。後者は、学習評価を通して得られた児童生徒の学習状況

のことである。両者の評価を総合的に判断することによって、指導の成果と課題を整理し、次の改善につなげるようにする。

道徳教育の一層の充実に向けた取り組み

(1) 道徳の教科化以降の取り組み

道徳を教科として位置付けた道徳教育の取り組みは、既に平成三十年から実施されている。まず、道徳教育の改善については、指導内容を重点化したり、各学年段階の指導の留意事項を踏まえたり、集団としての諸活動の充実を図ったりする取り組みが進められてきた。一方、道徳科については、検定教科書が主たる教材として用いられ、教科書を基盤とした年間指導計画の作成と授業が展開されることとなった。年間指導計画の作成に当たっては、他の教科等と同様、授業時数との関連で指導事項の配列編成が行われ、授業の構成と展開が行われる。この点は、全国的な共通性を確保するという意味で、改訂以前に指摘された学校や地域間の指導の格差を解消するものになりつつあるといえる。

共通性の確保は、地域や各学校、教員の創意工夫を阻害するのではないかといった批判もありうるが、教科書という基盤の上に、様々な取

り組みの工夫の余地は認められている。今後、教育実践の蓄積と交流が進められ、創意工夫の進展が期待される。一方、内容の取り扱いに関連して、言語活動の充実や問題解決的な学習、道徳教育に関する体験的な学習、現代的な課題等については、教科書において取り扱いの工夫がなされており、徐々に浸透していくと考える。

(2) 道徳科の指導の改善

今回の改訂に至る以前の平成二十四年、文部科学省により道徳教育実施状況調査が行われている。その中で、道徳の時間の年間指導計画については、九十九パーセント以上の学校で作成されているとの結果である。また、年間指導計画に含まれる項目については、主題名やねらい、資料名の記載の割合は高いのに比べて、主題構成の理由と展開の概要及び指導の方法の記載は低い。指導に当たって主題をどのように把握して、授業構成として見通すか、また指導方法の工夫にあいまいな面があることがうかがわれる。

今回、検定教科書が使用されることになり、年間指導計画を作成するには、教科書が欠かせない位置を占める。現在求められることは、他の教科と同様、主たる教材としての教科書を分析し、年間の指導の流れや各指導項目ごとの授業構成を検討していくことである。教科書の

分析に当たっては、教材名と主題との関連の把握、教材の内容の確認、その教材に関連する教科等や現代的諸課題との関連等を確認する。次に、これらをどのような順序で展開していくか構想を練り、指導計画に具体化していく。それによって、上記の実施状況調査からうかがわれる課題の解決を目指したい。

ちなみに、学研版道徳教科書においては、学習指導要領の改訂で示された問題解決的な学習、現代的課題に関する教材等も設定されている。年間指導計画を作成する際には、それぞれの教材の位置付けとねらいを把握し、どのような学習活動をどの場面で用いるかを構想することが必要である。

(3) 教科教育としての道徳の今後

教科とされたことによって道徳科の今後については、どのようなことが想定されるであろうか。第一は、教科の教育としての研究や検討が進んでいくことが予想される。教科教育の研究には、当該の教科の教育的意義や教育課程上の役割を研究する分野、教科のカリキュラムの在り方を研究する分野、教材や指導方法、評価の在り方を研究する分野が想定される。これらの研究の基盤は、学習指導要領と教科書、教材、授業実践の記録である。教科書という共通の基盤を生かしながら、研究会や学会等での研究や

実践の交流が期待される。

第二は、教員養成や研修の充実を通じた指導力の向上が期待される。指導力とは、教科の目標と内容、教材、指導方法、評価を一連のつながりとして計画し、実践を踏まえて不断に改善していく力量のことである。平成二十四年の調査では、「効果的な指導方法が分からない」との回答が三割を超えていた。今後は、道徳科の指導方法の改善と共有を、教育実践の蓄積と交流を通して進めていくことが大切である。

第三は、道徳教育の特色ともいえる道徳的価値についての見方や考え方を深めることである。道徳教育は、道徳的価値を理解し、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることをねらいとしている。道徳的価値を内容として扱うためには、教師自身が行為や事象を価値の視点から捉えたり、考えたりすることができなければならない。価値には、道徳的価値以外に経済的な価値や政治的な価値もある。価値の視点からの思考に慣れることが、道徳の授業を豊かなものにしていくのではないだろうか。

新教育課程の円滑な実施と定着、道徳教育の取り組みの成果が各地で共有され、道徳教育の水準と質の向上が進んでいくことを期待したい。

(くどう ぶんぞう)

道徳授業私の実践

新潟市授業マイスター 新潟県
新潟市立早通南小学校 教諭
渡邊 泰治

「ガラスの中に未来へのメッセージ」

ネイチャーアクアリウム・写真家の天野尚さんに学ぶ授業

魅力的な実話を教材に

自然愛護、友情、規則の尊重など、道徳で学ぶ内容項目は児童も既に理解している場合が多い。けれど、分かっているにもかかわらず実践できない・していない児童を交差させるには、実践への強い動機付けとなる新しい発見や体験、感動、方法の学習が必要である。

魅力的な実話の学習もその一つである。故・天野尚さんが撮影した美しい自然写真、多様な生物が共存するネイチャーアクアリウムの数々。病魔と闘

いながら最後まで前向きに生きた姿は、児童に大きな感動を与える。

脱・先の見える、きれいでこの授業

教師の意図が見え透いた授業ほど面白くない授業は無い。授業冒頭、分かり切った課題を示されれば、きれいでこの授業となり、学習意欲は高まらない。考え、議論する道徳には、知的好奇心を刺激し、主体性を引き出す工夫が不可欠である。また写真や動画、クイズ、教材の分割提示など、どの児童にとっても楽しめる考えに基づいた工

授業の概要

夫が必要である。

- 対象 小学六年生
 - 主題名 自然と共存するために
 - 内容項目 自然愛護
 - 教材「ガラスの中に未来へのメッセージ」(直接取材による自作読み物)
 - 教材の概要
- 【前半】一九五四年新潟市生まれの天野さんは少年期を魚や水鳥など、多くの生物の楽園「鏝湯」の自然の中で過ごした。高校卒業後、野生動物の宝

庫、アフリカを旅した。その後、十六年間にわたり世界各地や、国内の佐渡や屋久島などの自然を写真やエッセイで発表。水草を美しく元気に育てる世界初の装置を開発、世界中にネイチャーアクアリウムブームを起こした。二〇〇八年北海道洞爺湖サミットの会場に天野さん撮影の佐渡・金剛杉の写真が飾られ、世界中で注目を集めた。

一方、その写真を契機に、佐渡では観光客が金剛杉の山の自然を荒らす問題が起り、入山禁止にして自然を守るべきかどうかという大きな議論になった。

【後半】天野さんは、自然に触れさせない入山禁止ではなく、自然を伝える入山のルール作りを呼びかけた。議論の末、佐渡の人々も天野さんに賛同、今では木道が整備され、地元の人



がガイドをしている。

天野さんは、二〇一二年、東京スカイツリータウンのすみだ水族館の幅七mにも及ぶ巨大ネイチャーアクアリウムを制作。翌年、病魔と闘いながら、リスボン水族館で世界最大全長四〇m

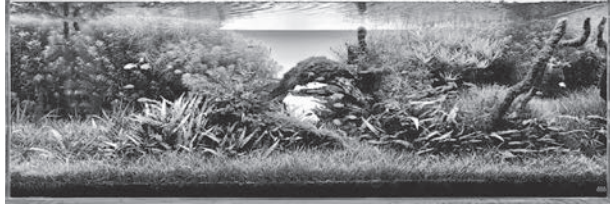
のネイチャー
アクアリウム
を完成させ
た。水草の中
で魚が群れる
すばらしい自
然が再現さ
れ、人々はそ
の美しさに見
とれた。オー
プンを見届け
た三か月後、
六十一歳の天
野さんは静か
に息を引き取った。

実際の授業

【導入】

写真『ネイチャーアクアリウム』

ネイチャーアクアリウムの写真の中
心を隠して提示、中身当てクイズで導
入を行った。その後、授業タイトル
「ガラスの中に未来へのメッセージ」と
板書し、「何それ?」「どんなメッセ
ージ?」と、児童の好奇心を刺激、問
いをもたせて、主体性を引き出した。



天野さんのネイチャーアクアリウム ※写真は全て (株) アクアデザインアマン

【展開】

教材物提示①【前半】

天野さん撮影の美しい写真(作品集
など)、天野さんが設立した会社「ア
クアデザインアマン」のホームページ
を提示しながら、読み物前半を再現構
成法で語った。

発問① 観光客を入山禁止にすべきか。

佐渡には金剛杉以外にも多くの自然
がある。それを見に観光客が押し寄せ
山野草を踏み荒らした問題を紹介し、
グループごとに話し合わせた。その後
個人で発表させると次の意見が出た。

〈入山禁止にすべき〉

- ・ 自然が壊され、失われるから
- ・ 地元の人が迷惑するから
- ・ 観光収入で地元の人も助かるから
- ・ 禁止したら多くの人が自然を見られ
ないから

〈ルールを作って許可すべき〉

- ・ 観光収入で地元の人も助かるから
- ・ 禁止したら多くの人が自然を見られ
ないから
- ・ ロープをはって制限すればいい
- ・ 監視やピラ、ポスターなどで呼びか
ければいい
- ・ グループで話し合わせることで多面
的な考え方に触れ、個人で再考する機
会を与えることで児童は自らの考えを
修正し補い、発表することができた。

教材提示②【後半】

天野さんの提案、地元の人々の決
断、その後の活躍などを、教材後半と
写真や動画を使い、再現構成法で語っ
た。ここでは、天野さん自身も迷った
ことを紹介し、児童の多面的な意見を
全て称賛した。

**発問②(深める発問) 写真やアクアリ
ウムに込められた未来へのメッセージ
とは何か。**

- ・ 自然のすばらしさ(共存共栄、美しさ)
- ・ 自然に触れること
- ・ 自然を守ること
- ・ 自然は復活できること
- ・ 自然保護への願い



世界中の熱帯雨林や水中・自然を撮影

【一般化】『天野さんのメッセージ』紹介

原点は十歳の私が夢中になった
故郷の自然。今は干拓されてその
姿はどこにもない。同じ現実を世
界で目にした。多くの人たちは自
然とのふれあい、すばらしさを知
らない。だから世界中で私が体験
し、学んだ自然のすばらしさを一
人でも多くの人に伝えたい。人間
も小さな生物も植物も、すべてが
共存共栄している、美しい地球の
姿を語りたい。アクアリウムの中
と同じように、失われてしまった
大自然も人間の力で復活させ、守
ることができる。小さな生命を愛
せずして、大自然を語ることはで
きない。

右のメッセージを伝え、学校近くの
自然を写真で紹介した。

【終末】

学びの振り返り、意欲化

「今日の学び」「今までの自分」「これから
の自分」の三つの観点で学びを振り返り、
ワークシートに感想を書いた。自然のすば
らしさ、身近な自然を守る決意を多くの
児童がつづった。(わたなべ やすはる)

道徳授業私の実践

東京都国分寺市立第三中学校
教諭
綾部 恵

自分にとっての「本当の幸せ」とは何か？

事前アンケートを活用して考えを深める

はじめに

本年度から中学校でも「特別の教科道徳」が本格的にスタートした。新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」に向けて、さらなる授業改善が求められている。「考え、議論する道徳」を実践するためには、生徒が道徳科の授業内容を自分自身の問題として捉える必要がある。

本校は東京都の道徳教育推進拠点校の指定を受け、昨年度までの三年間、研究を積み重ねてきた。その成果物の

一つとして「振り返りシート」がある。

2017年3年生1学期道徳科振り返り

※1学期の道徳科授業を振り返ります。

①授業に学んだ内容を振り返り、丸を書きまわしましょう。

項目	□
道徳科の授業	
先生の話	
自分の考え	
先生との対話	
自分の意見	
先生からの評価	
自分の感想	

②自分の考え、感想、意見、評価、感想を振り返り、自分の考えを深めよう。

振り返りシート

振り返りシート

これは、毎時間の授業の振り返りや、学期ごとに「印象に残った教材ベスト3」を書かせてきたものである。生徒自身に学期の道徳科の授業を振り返らせ、さらに教師自身の授業改善につなげるという二つの目的のもとに行

った。今回はその中で評価の高かった教材の実践を紹介する。

教材について

国連の持続可能ソリューションネットワークが発表した、世界一五〇か国以上が対象の大規模な世論調査「世界幸福度報告」によると、日本は二〇一〇年代前半には幸福度が四十位台だったが、二〇一九年には過去最低の五十三位になった。また二〇一五年のOECDによる学習到達度調査（七十二か国、五十四万人の十五歳が参加）にお

いても、日本の十五歳の生活満足度は、六十八位と低い。

調査で幸福そのものが測れるわけではないことは言うまでもないが、日本に暮らす人々の「自分は幸福である」と感じている割合や、現在の生活に対する満足度がとても低くなっている傾向は事実であろう。

今回教材として選んだのは、哲学者である永井均の『子どものための哲学対話』（講談社）の中の一編である。

この本は中学生にも分かりやすい平易な文章で、中学二年生の「ぼく」と猫の「ペネトレ」による哲学対話が進んでいく。今回はその中から「人生体験マシン」という文章を教材として使用した。

「幸せ」に生きるということの指標が見えにくい現代において、よりよく生きるためにはどうしたらよいかわ？ 文章中に登場する、自分が望んだ人生を味わえる「人生体験マシン」を通して、現実の人生を「幸せな人生」にするため、今後どのように生きていくべきなのか、ということを考えさせるきっかけの一時間とした。

授業の実際

○主題名 幸せな人生とは

○内容項目 よりよく生きる喜び

○教材名 「人生体験マシン(1)」「講

談社刊『子どものための哲学対話』

○ねらい 夢や希望、喜びのある自らの

生き方を見いだし、よりよく生き

ようとする実践意欲を育む。

【導入】幸せについて考える

「あなたにとって『幸せ』とはどのよ

うなイメージですか」という事前アン

ケートを実施し、結果を発表する。

・ご飯が食べられること。

・テストでいい点数をとること。

・お金持ちになること。

・友達と遊ぶこと。

・寝ていること。

授業の前日、数日前にアンケートを

実施することが、本時に向け、生徒が

『幸せ』について考える」ためのウォ

ーミングアップとなる。また、アンケ

ート実施時や前後の学活などの時間

には、生徒が「幸せ」について主体的に

考えられるような話を意図的に組み込

んでおくことよ。

【展開】教材を読み、考える

(本授業では、教材を前半、後半に区

切って提示している。)

○『人生体験マシン』があったら、

どのような『幸せな人生』を送って

みたいですか。]

*なぜその人生を選ぶのかを、理由と

共に考えさせる。

・宝くじで百億円当たる人生。(理由)

・異性の人生。(理由)今の自分では

できないことを味わいたいから。

・アイドルの人生。(理由)想像でき

ないから。

・スーパースターの人生。(理由)人

気者になってみたいから。

ほとんどの生徒が、自分が今は味わ

えないような、現実から少し乖離した

人生を挙げていた。

○『人生体験マシン』の『うその幸

福な人生』と自分なりの『幸せ』を

味わう人生のどちらがより『幸せ』

なのでしょう。か。]

・マシンの人生はうそでも、幸せと感

じていれば幸せ。

・病気の人や悲惨な境遇の人は、うそ

の人生の方がつらくなくていい。

・マシンの人生はうそだから、そんな

にすごい人生ではなくても本当の人

生のほうがいい。

ここではクラスがほぼ二分される結

果となった。マシンの人生と、つらい

ことがあるかもしれない現実の人生を

比較させることで、次の「本当の幸

せ」について考えさせるステップとし

たい。グループで考えさせてもよい

が、二色のカラーカードなどで意見表

示をさせながら、教室内を自由に歩き

回らせても、意見交流が活発になりお

もしろい。

◎「本当の幸せ」とは何でしょうか。

・喜びも悲しみもある人生が幸せ。

・自分の力で何かを乗り越えていく人

生が幸せだと思う。

・毎日ご飯が食べられる生活を送れる

ことが幸せ。

・少し経って振り返ったときに「幸せ

だった」と感じられる人生が幸せ。

この発問では、少し長めに考える時

間をとる。個人で考え、ワークシート

に意見を記入させた後、グループで話

し合わせる。さらにグループで意見を

交流させることにより、「幸せ」には、

様々な形があることを理解させたい。

おわりに

本実践は、まず「人生体験マシン」

という架空のマシンを通し、自分が本

当にやりたいと思っていること、今あ

る見えないリミッターがかかっている

かったら、やってみたいことを考えさ

せる。そこから現実の自分を振り返ら

せることにより、自分の好きなことを

追求できているか、他者の意見に振り

回されていないか、不平不満ばかり抱

いていないか、現在の自己へ思いを至

らせたい。そして、そもそも人生とは

何か、ということについて考えるきっ

かけにする。

身近な「幸せ」、「人生体験マシン」

による望んだことが何でも味わえる

「幸せ」、実際の「幸せ」な人生、とい

うように段階を踏んで考えさせること

により、他者と比較することのない自

分なりの「幸せ」と自分なりの「人

生」について考えを深めることができ

るであろう。

(あやべ めぐみ)

道徳授業私の実践

神奈川
神奈川県川崎市立中原中学校
教諭
田中 恵美子

新学習指導要領を意識した授業作り

くまずはできることから始めよう

はじめに

川崎市のほとんどの中学校では、これまで神奈川県のだ徳資料集『きらめき』を授業で使用してきた。この『きらめき』は主題構想に基づき、教材に描かれた主人公や筆者の生き方を話し合う手法である。ねらいとする内容項目との関わりを通して、よりよく生きるためにはどうすればよいのかを生徒に自ら深く考えさせることができるよう編集されている。この授業方法では、主人公の行動や考え方に対し、批

判的意見と弁護的意見、両方の立場の意見が活発に出て、「考え、議論する」道徳授業となっていた。しかし、平成三十一年四月からの教科書使用によりこの手法が適さない教材も出てきた。また、この手法では主人公の行動について感じたことを第三者的立場で発言することで話し合いを進めていくために、生徒は自分事として捉える機会が少なかった。

そこで四月より、新学習指導要領の特徴を意識して授業を実践するようにした。これまでの「考え、議論する」道徳の授業展開や発問方法に加え、少

しずつ新しい授業方法にも取り組み、新学習指導要領の特徴を生かしていきたい。

実施授業について

- 主題名 人を思いやる心
- 内容項目 思いやり、感謝
- 教材名「旗」(『中学生のだ徳 明日への扉2年』学研)
- ねらい 他者の立場を尊重しながら親切にし、いたわり励ます生き方の素晴らしさに気付き、互いに他者を思いやる心情を育てる。

授業展開

今回授業をするにあたり、意識した点を※で示している。

①導入

親切にされたり、声を掛けてもらったりしてうれしかったことはありますか。

※うれしい経験を思い出させ、他人がうれしいと感じることをしていきたい、と感じさせたいため。

※この授業では思いやりの心をもって人に接することの大切さは感じさせやすいが、感謝を感じるためには、相手からの思いやりをうれしく思う心が必要であると考えたため。

②あらすじや登場人物の確認

引越して間もない頃にけがをして学校を休んでいる少女と、お見舞いに来てきた友人とのお話です。二人の様子を想像しながらお話を聞いてください。

※少女に対する友人の思いやりだけでなく、少女がクラスメイトに感謝していることにも気付けたい。

③範読

④発問1 少女はレモン色の旗をどんな気持ちで見つめていたと思いますか。
※これまで主人公の行動などについて話を進めていたため、それに近い発問の方が考えやすいと予想した。

⑤発問2 旗の話が少女から聞いた友人は何を感じたと思いますか。
※発問1で少女の立場を考えると、発問2は友人の立場を考えさせることにした。その後、多面的・多角的に考える授業へつなげていきたい。

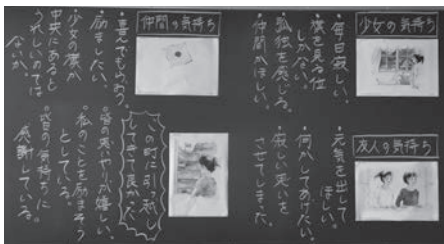
⑥発問3 クラス旗作りをしているときのクラスメイトの気持ちはどうだったと思いますか。友人が学校でどんな発言をして旗作りが進んだのかせりふを考えてみましょう。
※せりふを考えることで、自分事として考えることにつながり、少女に対する思いやりのある行動を考えることにもつながると予想した。またグループでの話し合いを取り入れることで、授業の活性化にもつながると考えた。

⑦せりふの発表
※⑥のせりふを発表させることで、動作化、役割演技など表現活動を工夫した授業へとつなげたいと考えた。

⑧発問4 この町に引越してきて良かったと少女が心から思えたのはなぜでしょう。
※今回の新指導要領では、内容項目で「思いやり」と「感謝」が統合された。この発問を入れることで、少女がクラスメイトに、感謝の気持ちをもっていることに気が付くきっかけにもなるのではないかと考えた。

⑨学習のまとめをノートに書く。
※書く活動を行わせ、評価に生かすとともに、教師側の授業改善につなげることが大切であると考える。

○板書について
少女、友人、クラスメイト、それぞれの立場の思いを対比的、構造的に示す工夫をした。



生徒の反応

○せりふ

A 「ねえ、昨日○○さんのお見舞いに行っただ。○○さんの部屋から黄色い旗が見えるんだけど、その旗を見て、みんなと会えない寂しさをまぎらわせているみたい。」

B 「え、そうなの？ でも、その黄色い旗って……。」

C 「元気づけられることないかなあ。」

A 「私、○○さんからきれいをもらってきたけど、真ん中にバラがあるの。」

D 「それをクラス旗の真ん中におけばかわいいし、○○さんも喜ぶよね。」

C 「でもそれを○○さんにどうやって見ってもらえばいいかな。」

B 「黄色い旗って、俺の父さんの店じゃないかな。クラス旗をあげていいか聞いてみるよ。」

※代表生徒が発表した班もあったが、指示をしなくても、グループ内で分担を決めて発表を行う班が多かった。

○感想

・少女はクラスの人たちの優しさがとてもうれしかったと思います。明る

く優しい人であふれているクラスだから、この町に引越してきて良かったと思えたのだと思いました。私もクラス一人一人がみんなのことを思うことは大切だと感じました。
・みんなの思いやりからクラス旗をあげることができたのだと思います。私もクラスみんなのように、親切で気遣いができる人になりたいです。
・友達には思いやりをもって接して、悲しんでいる人がいたら、どうすれば元気づけられるかを皆で考えたいと思いました。

おわりに

教科書を使用した授業を行うようになってまだ四か月しか経っていないため、本校の職員も戸惑いながら取り組んでいるように感じる。しかし、二の足を踏むのではなく、できることからしっかり取り組んでいくことで、少しずつ新しい道徳の授業展開に慣れることができると感じた。今後も新しい形の道徳授業を充実させるよう、学校全体で取り組んでいきたい。

(たなか えみこ)

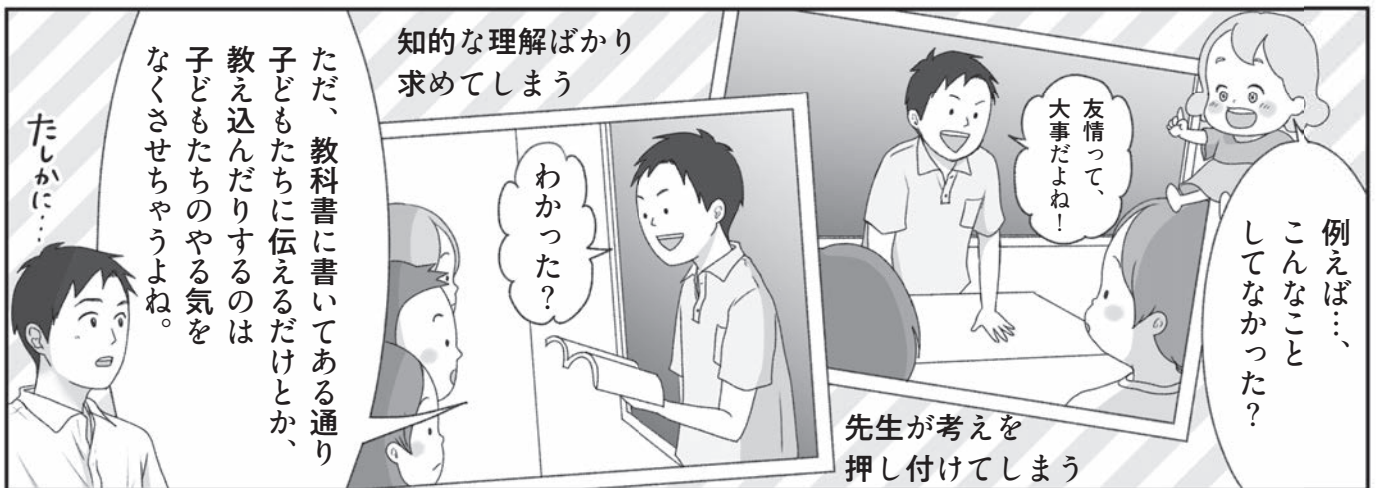
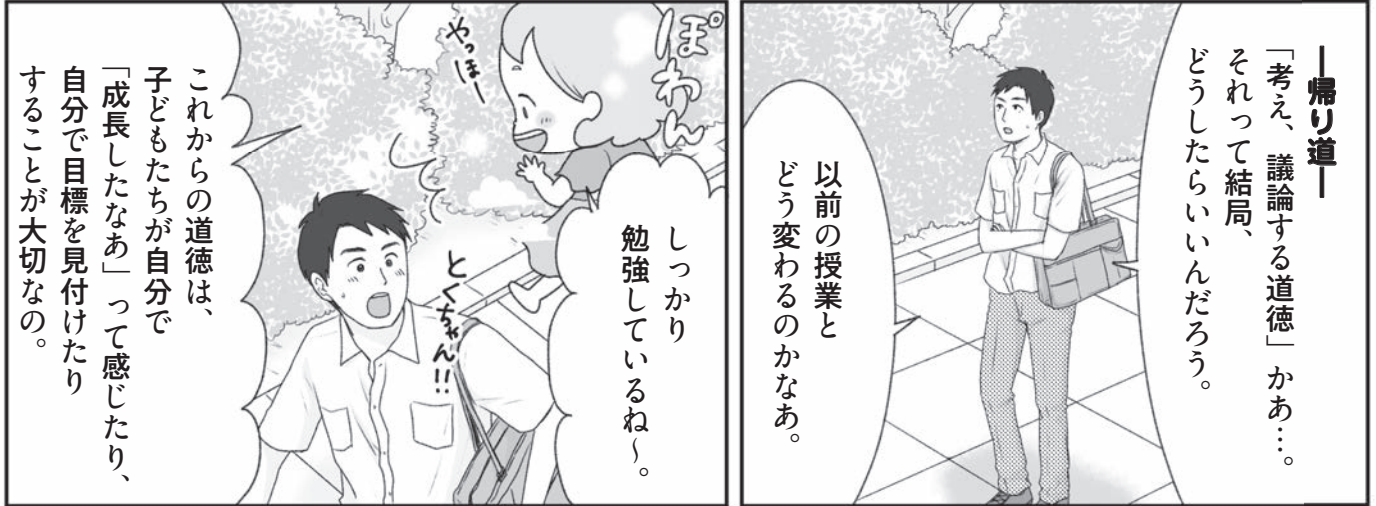
どうなるこれからの道徳授業

連載4回 考え議論する道徳って? 編

マンガ・のはらあこ

とくちゃん

監修・法政大学
キャリアデザイン学部兼任講師 廣瀬仁郎先生



※登場人物への自我関与が中心の学習



まず一つ目は、
読み物教材で
登場人物の立場になって
考える学習。



でも…具体的に授業を
考えていくときには、
どうしたらいいのかな。

それなら、こんな指導法の例があるよ。
これらを組み合わせ、いろんな
展開を考えると、どんな多様な
指導法が発展していくかもしれないね。

※問題解決的な学習

それから、
問題を見付けて
解決していく学習。



なるほど私は
こんな風に思ったよ！

“ほくはこう
思ったよ！”

役割演技などを
実際にやってみるっていう
方法もあるよね。

※道徳的行為に関する体験的な学習
(役割演技・動作化)

へえ！
いろんな授業を
してみたくなったな。

指導方法って
いろいろ工夫のしようが
あるんだね。

そうだよ、
工夫のポイントは
たくさんあるよね。

道徳科に生かす指導方法の工夫

- ①教材を提示する工夫
- ②発問の工夫
- ③話合いの工夫
- ④書く活動の工夫
- ⑤動作化、役割演技など表現活動の工夫
- ⑥板書を生かす工夫
- ⑦説話の工夫

出典：『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（文部科学省）

わあ、全部できるかな。

次回予告

次回は「お母さんのせい求書」を題材に
役割演技の授業をご紹介します。お楽しみに♪

具体的にはどのような授業実践ができるか、
次号以降で紹介していくよ！

一度に全部やろうとしなくても大丈夫。
「今日は、発問の仕方を変えてみよう」とか、
「今日は板書を対比させて見えるようにしよう」とか、
一時間一工夫を目指していこう。

よし、
やっるぞー！

